

② 11月04日（火）

「漢譯佛典」に見られる「中國化」

（１）「經典の三種分類法」（本講義9回を通して用いる）

漢語で表記された經典（sūtra = scripture）の分類法：

従來の二種分類と、船山徹の三種分類（Funayama 2002, 2013）

従 來 の 二 種 分 類		船 山 徹 の 三 種 分 類		
漢譯經典 = Chinese Buddhist translations = CBT	偽經 = Chinese Buddhist Apocrypha = CBA	漢譯經典 Chinese Buddhist translations = CBT	編輯經典 Chinese Buddhist Compilation Scriptures = CBCS	偽經 Chinese Buddhist Apocrypha = CBA
Made in India, Translated in China	Made in China = Pseudo-sūtras	Made in India, Translated in China	Made in India, Assembled in China	Made in China = Pseudo-sūtras
例：鳩摩羅什譯『維摩詰所說經』、『金剛般若波羅蜜經』	例：失譯『大方便佛報恩經』、『提謂波利經』	例：鳩摩羅什譯『維摩詰所說經』、『金剛般若波羅蜜經』	例：鳩摩羅什譯『大智度論』	例：失譯『大方便佛報恩經』、『提謂波利經』
インド語原典を （逐語的に）漢譯した經典	中國で偽作した經典	インド語原典を （逐語的に）漢譯した經典	インド原典の素材を用いて中國 で新たに編輯した經典	中國で故意に偽作した經典
中國佛教文獻であると共にインド 佛教の資料でもある	中國佛教資料であり、インド佛 教資料とはならない	中國佛教文獻であると共にイン ド佛教の資料でもある	構成要素はインド佛教資料とな るが、全體の構成は中國資料	中國佛教資料として價值が高い が、インド佛教資料ではない
〔漢譯經、漢譯律、漢譯論〕	〔偽經、偽律、偽論〕	〔漢譯經、漢譯律、漢譯論〕	〔編輯經、編輯律、編輯論〕	〔偽經、偽律、偽論〕

(2) 「偽經」とは何か？

Funayama (2015: 283) :

The term “Chinese Buddhist apocrypha” refers to those scriptures, or the genre of such scriptures, that while appearing in form to be purely the Chinese translation of a scripture (or *sūtra*) originating in India **were in fact composed in China.** ... Scholars thus generally use the term Chinese Buddhist apocrypha to mean “***sūtras composed in China.***” The use of the word “apocrypha (正典から除外された外典)” is merely conventional, and it does not exactly match the original meaning in the Judeo-Christian context.

中國佛教の術語

「真經」：漢譯經典＝インド原典の逐語譯。インド大乘經典の漢譯は真經である



「偽經」：非漢譯經典＝偽作經典＝中國化經典。様々な中國文化や思想を内に含む

【比較】次の一節に見られる方廣鋁の偽經の定義は極めて特異！

通常は中國思想を含む『四天王經』を偽經と考える說に對する方廣鋁氏の反論

方廣鋁「從《劉師禮文》談中印文化的匯流」

（『國際佛教學大學院大學研究紀要』11, 2007, p. 203）：

《四天王經》既然是翻譯典籍，何以深受中國傳統文化的影響？這涉及到筆者近年來非常關注的問題，即佛教的發展，並非印度文化單純的自我演化，而是包括中國文化、西亞文化等廣大亞洲文化共同匯流的結果。具體到《四天王經》，很顯然，這是中國文化傳入西域、傳入印度，與西域、印度的佛教文化相結合的典型事例。這一文化匯流的產物又回傳中國，被翻譯成漢文。因此，我曾經撰文說：“佛教的產生雖然得益于印度文化的孕育，而佛教的發展則得益于印度文化、中國文化乃至其他地區文化的匯流。也就是說，中國是佛教的第二故鄉，這不僅體現在現實的結果中，也體現在歷史的過程中¹⁸。”

(2) 「漢譯經典=Chinese Buddhist Translations」とは何か

原則として、インド起源の原典（サンスクリット語原典、パーリ語原典など）の逐語的な直譯である

⇒ 漢譯における「中國化＝中國的變更」は、非常に少ない

しかし「中國化」と關聯する漢譯經典も時々存在する

直譯が難しい場合は、譯者は、全體の意味が變わらないように譯すことに苦慮する

⇒ その結果、譯者の漢譯は大膽に言い換えた譯（≈自由譯）を示す場合もある

⇒ このような「大膽な譯」は次の二局面に現れる：

(A) 意味を適譯できない場合、意味不明の音譯（phonetic transcription）に止める

(B) 瞬時に理解できる中國特有の語があれば、意味が違っててもそれを使用する

このうちで (B) に相當する漢譯語は「佛教中國化」に直結する

(3) 普通、漢譯の語彙は、義譯（意味譯）と音譯（音寫語）の二種に大別される
しかし二種より、三種に分類する方が、譯語の種類を更に理解し易い（船山說）

① 義譯語（意味譯） dharma→ 法、prajñā→ 智慧、nirvāṇa→ 滅度

原語の意味を愚直にそのまま漢語に逐語譯する場合

② 音譯語（音寫語） Jambūdvīpa → 閻浮提、saṅgha→僧伽、prajñā→ 般若

原語の意味を譯せない場合と譯さない方が効果的な場合の2種あり

③ 文化對應型譯語 nirvāṇa→ 無為（道家語） Cf. 義譯「滅度」、音譯「涅槃」

直譯よりも中國人に nāga（蛇, serpent / cobra）→ 龍 (Chinese dragon)

直觀的に理解可能な amṛta（不死の〔飲物〕）→ 甘露（美味の雨露）

適譯がある場合 bodhi（目覺め/悟り）→ 道（Way, 道家語・儒家語）

=中國文化の中に最適の語があれば、原語と意味が全く違っても、敢えてそれを大膽に活用

(Funayama 2013)

③ 文化對應型譯語 bodhi（目覺め/悟り）→ 道（Way, 道家語・儒家語）

吳 支謙譯『維摩詰經』卷一：

此五百童子，皆有決於無上正真之道，願聞得佛國土清淨。（T14, 520a）

支謙譯『維摩詰經』

「無上正真之道」

鳩摩羅什譯『維摩詰所說經』

「阿耨多羅三藐三菩提心」

玄奘譯『說無垢稱經』

「阿耨多羅三藐三菩提」

Sanskrit 原典

anuttarāyāṃ samyak-śambodhau

同様に、

支謙譯『維摩詰經』

「道樹」

鳩摩羅什譯『維摩詰所說經』

「菩提樹」

玄奘譯『說無垢稱經』

「大菩提樹」

Sanskrit 原典

bodhi-vṛkṣam 直譯“覺樹”

⇒ 支謙譯「道」
 = 「菩提」
 = Sanskrit 原文 bodhi (“覺”) 或いは sambodhi (“正覺”)

⇒ 支謙譯「道」は文化對應型譯語である。

問：何故に「道」という語が中國人讀者に分かり易いか？

答：中國文化において傳統的な「道」は、普通の道路 (path) という意味ではなく、萬物諸事象の「根源」を指す道家の『老子』と儒家の『論語』の語である。

『老子』（＝『道德經』）第一章：道可道，非常道。名可名，非常名。無名天地之始，有名萬物之母。……。玄之又玄，衆妙之門。

“The Dao that can be trodden is not the enduring and unchanging Dao. The name that can be named is not the enduring and unchanging name. (Conceived of as) having no name, it is the Originator of heaven and earth; (conceived of as) having a name, it is the Mother of all things. . . . Where the Mystery is the deepest is the gate of all that is subtle and wonderful.” ——— English translation by James Legge

『論語』里仁篇：子曰，朝聞道，夕死可矣。

③ 11月05日（水）

「偽經」に見られる「中國化」

（1）「偽經」とは何か

「偽經」＝偽作經典＝英語 Chinese Buddhist Apocrypha "中國佛教正典以外の外典"

「偽經」は、漢譯經典と同じ外觀であるが、内實は中國で偽作・捏造した經典

「偽經」の反意語は「真經」（真正の經典、正典）である。

では、「真經」とは何か？

漢語「真經」：インドから傳來した佛教經典の漢譯。真經は大乗經典の漢譯を含む
中國における經典の一つ。インド傳統佛教派の大乗非佛說（大乘批判）は無關係



漢語「偽經」：インドから傳來したのではなく、中國で偽造・捏造した經典

偽經の定義 Funayama (2015: 283) :

The term “Chinese Buddhist apocrypha” refers to those scriptures, or the genre of such scriptures, that while appearing in form to be purely the Chinese translation of a scripture (or *sūtra*) originating in India **were in fact composed in China**. . . .
Scholars thus generally use the term Chinese Buddhist apocrypha to mean “***sūtras* composed in China**.” . . .

(2) 「偽經」の数は極めて多かった

唐 智昇『開元釋教錄』（成書730年、長安）

730年の中國長安に現存すると確定できる正統經典の數：1076部

經典目錄に依れば730年までに中國に存在した偽經の數：約400部

その他の佛教經典目錄も参照すると、偽經が時代ごとに徐々に増加したことが分かる

⇒ 佛教の流行と偽經の増加は表裏一體の關係にあった

(3) 460年頃の偽經『提謂波利經』の中國的思考

五戒（不殺生戒、不偷盜戒、不邪淫戒、不妄語戒、不飲酒戒）の中國化：

「提謂、波利等問佛，「何不為我說四六戒」。

佛答，「**五者，天下之大數**。在天為**五星**，在地為**五嶽**，在人為**五臟**，**在陰陽為五行**，在王為**五帝**，在世為**五德**，在色為**五色**，**在法為五戒**」。

(T33, 260c)

「提謂（トラプシャ）と波利（バツリカ）たちが佛に訊ねた、「どうして（在家の）私たちには〔専ら五戒だけを説き〕、戒の數を〔減らして〕四つとしたり、〔増やして〕六つとしたりして説かないのですか」。

佛は答えた、「**五は、天下の大數である**。〔だから〕天の場合は**五星**となる。地の場合は**五嶽**となる。人の場合は**五臟**となる。**陰陽の場合は五行**となる。王者の場合は**五帝**となる。世の場合は**五德**となる。色の場合は**五色**となる。〔同様に〕佛法の場合は「**五戒**」となる。……」

原文「**五者**，**天下之大數**」という考えから「**在陰陽為五行**」が導かれ、その中國特有の陰陽五行説に基づいて「**在法為五戒**」と解釋するという論理に注目せよ

「五星」：漢語：東(木星)、南(火星)、中央(土星)、西(金星)、北(水星)

「五嶽」：漢語：東(泰山)、南(衡山)、西(華山)、北(恒山)、中岳(嵩山)

「五臟」：漢語：心臓、肝臓、脾臓、肺臓、腎臓

「**五行**」：漢語：東(**木**)、南(**火**)、中央(**土**)、西(**金**)、北(**水**)

... ..

「五色」：漢語：東(青)、南(赤)、西(白)、北(黒)、中央(黄)

「五戒」：漢語：東(不殺)、南(不飲酒)、西(不邪淫)、北(不盜)、中央(不妄語)

⇒ 五行（木、火、土、金、水）説に基づく「五戒」解釋 ⇒ 完全なる中國思想！



(4) 偽經『清淨法行經』の中國的思考

「阿難聞佛遺教屬累，懇至如此，悲泣詣佛，頭面作禮，前白佛言，「閻浮利地，何國難化，人民罪惡」。

佛告阿難，「諸國皆易，天竺東北真丹偏國，人民攏捩，多不信罪。知而故犯，剛強難化。生天者少，地獄者多，甚可慈愍。吾今先遣弟子三聖，悉是菩薩，善權示現。（1）摩訶迦葉，彼稱老子。（2）光淨童子，彼名仲尼。（3）月明儒童，彼号顏淵，宣吾法化。老子『道德』、孔子『孝經』，文各五千。孔、顏二賢以為師諮（→資？），共相發起，講論「五經」，『詩』、『傳』、『易』、『禮』威儀法則以漸誘化，令彼人民普服法味，然後「佛經」當往真丹。……」

「阿難は、佛がこのように懇切にこの世の人々に教えを遺して去る様子を聞くと泣き悲しみ、佛の所に行き、頭面を地に付けて禮拜し、佛の前に進み出て、こう訊ねた、「閻浮提の地で、どの國が教化し難く、人民が罪深く惡業に汚れていますか」。佛は阿難に告げた、「諸國はみな教化が容易であるが、唯一、天竺の東北にある真丹（＝中國）だけは邊地國であり、人民は捻（ひね）くれ、罪業を信じない。知っているのに故意（わざ）と違犯し、頑強で教化し難い。天界に生ま

れる者は少なく、地獄に落ちるものが多い、甚だ憐れむべき人々である。〔だから〕私は今、まず先に、〔天竺の〕三人の聖人をそこに派遣しようと思う。〔三人は〕いずれも菩薩であり、素晴らしい方法で人々に〔姿を〕現すであろう。

（１）摩訶迦葉は、彼の地では老子という名になるであろう。（２）光淨菩薩は、彼の地で仲尼（孔子）と呼ばれるであろう。（３）月明儒童（月明という若者）は、彼の地で顔淵と呼ばれ、〔この三人が〕我が佛法を宣教するであろう。老子の『道德經』と孔子の『孝經』は各々長さ五千字であり、孔子と顔淵の二賢者が師と弟子になり、互いに發揚して、「五經」を講説し、〔すなわち〕『詩』、『傳（春秋）』、『易』、『禮』〔等の様々な〕振る舞い方や規則によって人々を徐々に教化し、彼の地の人々が遍く佛法の味を攝取するように變えるであろう。こうして〔まず先に条件を整えてから〕その後に「佛の經典」が真丹國に至るであろう。……」

偽經『清淨法行經』の特徴

＝インドの釋迦が説いた形で、インドと中國の三偉人を對應付ける預言を示す

(インド佛教)

(中國教化活動)

インドの摩訶迦葉 (Mahā Kāśyapa) → 中國の老子；『老子』

インドの光淨菩薩 → 中國の孔子；『孝經』

インドの月明儒童 → 中國の顏淵 (孔子の弟子)

⇒ 中國の三偉人 (老子、孔子、顏淵) とインド佛教の三偉人を結合

このような「インドと中國の對應付け」が偽經『清淨法行經』の特徴である

(5) 唐代密教偽經『大乘瑜伽金剛性海曼殊室利千臂千鉢大教王經』の中國的思考

「說經之根宗本有三。

一者、毘盧遮那法身，本性清淨，出一切法金剛三摩地為宗。

二者、盧舍那報身，出聖性普賢願行力為宗。

三者、千釋迦，化現千百億釋迦顯現聖慧身，流出曼殊室利身，作般若母為宗」。

(T20, 730a)

佛三身說：法身 = 「毘盧遮那」、報身 = 「盧舍那」、化身 = 釋迦

中國の漢語で音譯「毘盧遮那」と音譯「盧舍那」は、文字が異なるから別物である
しかしインドの梵語では毘盧遮那 = 盧舍那 = Vairocanaなので同一語 → 區別不可能

⇒ 梵語では同一語のVairocanaを「漢字表記から毘盧遮那と盧舍那に區別」

⇒ この「漢語に基づいて分類する」視點に中國化した思考を看取できる